

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
3年	<ul style="list-style-type: none"> 初めての外国語活動の授業に興味津々である。多くの児童が大変意欲的に授業に参加しているため、どの学級も活気に溢れている。友達のがんばりをみんなで称賛してあげようと思えるような児童が多い。外国語活動の学習規律もよく守れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚教材として用いるものについては、アルファベット表記されているものは極力避け、写真や絵、実物や映像などの文字に頼らないものを用いる。 ○歌やチャンツなどを多く取り入れ、英語の音に十分に慣れ親しませる。 ○基本的な英語表現については、文字指導や文法的な指導は用いずに、音声を繰り返し耳にさせることで学習させる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年までの外国語活動の積み重ねがあるため、意欲的にやりとりを楽しむ児童が多い。発言をしたり、間違いを恐れずに英語を口にしたりできる児童が多いため、全体での学びが深められる場面を多くもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年までに学習した英語表現を、適切な場面で使う練習を積めるような学習活動を設定する。 ○発達段階として、恥ずかしがったり失敗を恐れたりしないうちに、友達や教師と英語でコミュニケーションを図る体験を多くさせる。 ○基本的な英語表現については、文字指導や文法的な指導は用いずに、音声を繰り返し耳にさせることで学習させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の特色として、恥ずかしがったり間違いを恐れたりするような児童が少なく、明るく楽しい雰囲気の中で授業に臨んでいる児童が多い。昨年度までの外国語活動との違いや教科としての位置付けを伝えるためのオリエンテーションを学期始めに行ったため、多くの児童が真剣かつ意欲的に授業に参加している。教師やALTとの関係も良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が児童に聞かせる英語表現は、その時間に達成すべき目標として設定している英語表現に絞り、児童が何を重点的に学習すればよいのかを明確にする。 ○友達同士で称賛し合う機会を多くつくり、児童に達成感を味わわせる。 ○アルファベットの形や大きさに意識させ、大文字と小文字を正確に認識できるようにさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科としての外国語科の位置付けをよく理解しているため、多くの児童が真面目に授業に臨んでいる。既習表現を用いて自分の思いや考えを発信する活動や他教科と関連している内容を英語で学習する活動を通して、児童一人一人が今まで蓄えてきた英語力を発揮する機会を多くもっている。しかし中には、これまで蓄積されてきた英語に対する苦手意識を払拭できずにいる児童もいるため、個別の声がけや指導、児童の実態に合った授業展開や教材の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の難易度に合わせて、日本語と英語とを効果的に使い分ける。 ○視覚的に英語表記で示さなくてもよいものは日本語表記にし、児童の負担を軽減する。 ○毎授業後に児童が提出している振り返りシートで児童一人一人の学習状況を確認し、必要に応じた個別指導や個別の声がけをしていく。 ○英語の音に十分に慣れ親しみ、コミュニケーションの基礎となる英語表現を多く口にさせることで、自然なやりとりができるようにする。